

いちょうレポート



No.178 2015年3月 (有)アクティ 公認不動産コンサルティングマスター 室 和允
TEL: 042-652-3389 FAX: 042-651-4617 URL: <http://www.acticonsult.co.jp>

—経済成長とは 2—海士町の改革—

人口減少、少子高齢化が進む日本で、島根半島を北へ 60 キロ沖にある隠岐諸島に、人口約 2400 人の海士町（あまちょう）があります。コンビニのない、道で会えば必ず挨拶をする所です。2002 年に始まる、山内道雄町長を中心とする海士町にかかわる人々のプロジェクトの戦略と努力の軌跡には、人の暮らしと仕事のありようにおいて、時代は次の社会ステージに入ったかと思わせる新しい息吹があります。

人口減少が続いた町は 2003 年の三位一体改革で、「地方交付税の大幅な減額」、「公共投資の急激な減少」、「高齢化による生産年齢人口の減少」などで、財政再建団体へ転落するののかという危機的状况にありました。05 年での高齢化率は 37.6%でした。町長は自らの給与を 1/2 カットし、職員も給与を減らすことを申し出て、この減額した資金をもとに最新の瞬間冷凍技術「CAS」を導入し、海士町で採れた魚を外の市場、本土へ直接販売することに貢献しました。養殖岩牡蠣や隠岐牛を出荷するなど、産業を創出し、外からの収入を図ります。併せて定住対策にも取り組みます。

1. 移住者を呼ぶ

①島前高校魅力化プロジェクト

高校は 2008 年には生徒数 30 人をきって存続が危ぶまれます。高校がなくなることは島の自立の危機です。島外から生徒を呼ぶことにし、プロジェクトを立ち上げ、魅力ある学校づくりを目指します。全国から生徒が集まり、学力も上がり、2012 年度からは学級増となります。プロジェクトは後に、地域の問題解決のモデルとなる取組みを表彰するプラチナ大賞総務大臣賞を受賞しました。教育改革を進めてきたのは、I ターンした岩本さんです。

②定住促進のための環境づくり

若者を含めた定住促進のために、空家の利活用、定住促進住宅の整備、移住者への手厚い就労支援制度、雇用の創出、U ターン・I ターン者を受け入れる環境づくりを積極的に進めていきました。I ターンでは、キャリアのある大手企業の 2、30 代が海士町の自立の強い想いと実践に共感して起業しており、彼等の活動で各社が大きくなりさらに人が入るといことで、島が変わってきました。トヨタを退職して I ターンした阿部さんは、「大企業、都会でなくても、地域に貢献できる仕事をしながら地域の方とともに生活を楽しみ安全なおいしいものを食べて家族と幸せに暮らす、そんな人が増えれば疲れ切った現代社会ももっと暮らしやすいものになる」と考えました。現代社会への問題を提起し、実践します。巡りの環という企業を立ち上げ、「地域づくり事業」「地域から学ぶ事業」「メディア事業」を始めます。子どもの出生が増えて人口増へ転じました。

2. 島の幸福論

「島の幸福論」を皆で考え、海士町総合振興計画をつくります。住民一人ひとりが「幸福であること」「持続可能であること」を大切に、住民一人ひとりの力を高めることが海士町の地域力の一層の強化につながると思います。住民の「自分達の島は自ら築く」という挑戦の意思と一人ひとりが足元から小さな幸福を積み上げ海士らしい笑顔の追求をしようという想いです。海士町に住んでよかったという町づくりが基本姿勢です。

島の幸福論は、都市の幸福論とは違います。都市と海士町がそれぞれ目指す幸福の指標という興味深い比較があります。海士町を目指す幸福論とはなにか。①家族・友人、②生活環境・暮らし、③安全安心な社会、④自然環境、⑤仕事、⑥趣味・余暇、において都市を上回り、⑦教育・学力、⑧所得、において都市を下回ります。

海士町総合振興計画の理念には、①心が満たされる島、②手づくりのある島、③幸せを実感できる島、④美しい風景を残す島、の 4 つがあります。

海士町の挑戦は、大企業や公共事業に頼らず、農業漁業で自立を目指す離島や限界集落の希望です。GDP では人の営みは分からない。目指すのは GDP ではなく一人ひとりが幸せを実感することだと思のです。